

登録コード	UAF19500	開講年度	2026				
授業題目	教育分野に関する理論と支援の展開					担当教員	茅野 理恵 他
						副担当	川崎 隆
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【心理・長野臨床以外】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	心理学分野の高度な知識・技能を有する。	
	【心理・長野臨床以外】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。	
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理・長野臨床】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	心理学分野の高度な知識・技能を有する。	
	【心理・長野臨床】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。	
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	心理学分野の高度な知識・技能を有する。	
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔	量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。	
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				⇔	多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。	
	(2)授業の概要	本講義は講義形式部分、演習部分を往還しつつ学習を深める。全員参加型の授業となる。 全体を通して、担当教員が公立小中高等学校および教育専門機関における教育相談の実務経験を活かし講義を行う。					
(3)授業計画	<第1回～第7回 担当 篠田直子教員> 第1回：学校における様々な問題の現状とその背景課題（1） 第2回：学校における様々な問題の現状とその背景課題（2） 第3回：学校におけるカウンセリング 第4回：学校における相互コンサルテーション演習 第5回：チームとしての学校 第6回：学校におけるコンサルテーションとは 第7回：学校におけるコーディネーション <第8回～第14回 担当 茅野理恵教員> 第8回：子どものサインの理解 災害時のメンタルヘルス 第9回：事件・事故・災害等の危機場面での心のケア-PFA 1～3－ 第10回：事件・事故・災害等の危機場面での心のケア-PFA 4～6－ 第11回：事件・事故・災害等の危機場面での心のケア-PFA 7～8－ 第12回：学校での事件・事故・病気・けが等の危機場面での対応 第13回：自殺危機場面での初期介入スキル 第14回：自殺危機場面での初期介入スキル（演習） 最終レポート 期末試験 無						
(4)成績評価の方法	1)以下を総合して判定する。 ・授業への主体的・積極的な関与を確認する「授業実績」「毎回の課題」：50% ・毎回の授業内容の理解度を確認する「振り返りレポート」：25% ・授業のねらいの達成度を確認する「最終レポート」：25%（出席2/3以上の者に提出資格を与える） ＊評価割合は若干の調整を行うことがある。 2)得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(5)成績評価の基準	①レジュメの作成等の授業準備 ②授業でのプレゼンテーションにおいてわかりやすく情報を伝えることができたか ③ディスカッションにおいて主体的・積極的に関与したか ④自らの問題意識に基づいて課題を検討することができたか ⑤他者の意見を取り入れながら、次への方向性を検討することができたか 以上5つの観点について ①～⑤の5項目を満たし、且つ新たな視点を組み入れつつ検討することができていれば「卓越している」 ①～⑤のうちの5項目を満たしていれば「かなり上にある」 ①～⑤のうちの4項目を満たしていれば、「やや上にある」 ①～⑤のうちの3項目を満たしていれば、「その水準にある」						
(6)事前事後学習の内容	毎回授業の冒頭に、前週の振り返りを行いその理解を確認する演習を行う。それに備えるため、前週の授業内容を復習してから授業に臨むこと。・この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って60時間以上の時間外学習が必要となる。						

(7)履修上の注意	・授業は、受講者が行った課題の発表とそれに基づくディスカッションで展開する。授業にあたっては、前週に出された課題を行うと共に、発表用資料を準備しておくこと。 ・ディスカッションへの積極的な参加を期待する。 ・毎回の振り返りレポートは、翌週の授業時まで提出すること。 ・障害による修学上の困難がある方は相談してください。
(8)質問,相談への対応	茅野(理)研究室(E403) Tel:026:238-4207 e-mail:chinori@shinshu-u.ac.jp 川崎研究室(E407) Tel:026:238-**** e-mail:****@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	指定しない
【参考書】	アレン・E・アイビ著(1985) マイクロカウンセリング 川島書店 石隈利紀・水野治久(2009) 学校心理学の最前線 学校での効果的な援助をめざして ナカニシヤ出版 石隈利紀・田村節子(2003) 石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門 図書文化 五十嵐哲也・茅野理恵(2017) 保健室・職員室からの学校安全 事例別 病気、けが、緊急事態と危機対応 Volume1 少年写真新聞社 五十嵐哲也・茅野理恵(2017) 保健室・職員室からの学校安全 事例別 病気、けが、緊急事態と危機対応 Volume2 少年写真新聞社 かしまえりこ・神田橋條治(2006) スクールカウンセリングモデル100例 創元社 小林 宏(2012) 学校におけるこころの危機対応ワークブック 金子書房 上地安昭(2003) 教師のための学校危機対応実践マニュアル 金子書房 滝川一廣(2017) 子どものための精神医学 医学書院 アメリカ国立子どもトラウマティックストレスネットワーク(2011) 災害時のこころのケア:サイコロジカル・ファーストエイド 実施の手引き第2版 医学書院